

2025年度 事業計画書

自：2025年4月 1日

至：2026年3月31日

当財団は、これまで研究助成とフォーラム・シンポジウム等開催助成を中心に、情報科学分野の研究活動に対し、過去29年にわたって累計 6億9,445万円を助成してきた。本年もその方針を維持しつつ、助成事業を中心に置き、情報科学の振興を図り、学術の発展に寄与していく。また、本年当財団が設立30周年を迎えるにあたり、30周年記念事業も合わせて実施する。

公益目的事業1 助成事業

1. 研究に対する助成

大学等、公的研究機関などに属する研究者が行う情報科学に関する研究に対し、次により研究費の助成を行う。

(1) 研究助成金額

予算総額 3,000万円 (1件200万円まで)

(2) 助成対象研究の募集及び選考

大学等、公的研究機関などに属する研究者等が対象。

高等専門学校や大学への案内、ホームページでの公募を通じ広く応募を受け付ける。

情報科学分野の専門家による選考委員会において研究助成対象者を選考し採択する。

(3) 募集期間

2025年6月1日(日)～2025年8月31日(日)

決定は2025年11月中旬。

※ 「2025年度 研究助成要綱」は後頁

2. 国際会議、学術講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー、研究集会及び研修会の開催に対する助成

(1) フォーラム・シンポジウム等開催助成

予算総額 200万円 (1件100万円まで)

(2) 募集及び選考

情報科学に関する国際会議、学術講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー、研究集会及び研修会を募集し選考する。応募は高等専門学校、大学などへの案内やホームページなどを通じて告知し、広く受け付ける。

選考は情報科学分野の専門家による選考委員会において情報科学分野の進行と学術発展に寄与する提案を選考する。

(3) 募集期間

2025年6月1日(日)～2025年8月31日(日)

決定は2025年11月上旬。

※「2025年度 フォーラム・シンポジウム等開催助成要綱」は後頁

3. 設立30周年記念特別助成

設立30周年を記念して、大学、公的研究機関などに属する研究者が行う情報科学に関する研究に対し、次により研究費の助成を行う。

(1) 特別研究助成総額

限度額 2,000万円 (1件1000万円まで)

(2) 助成対象研究の募集及び選考

大学等、公的研究機関などに属する研究者等が対象。

高等専門学校や大学への案内、ホームページでの公募を通じ広く一般からの応募を受け付ける。

情報科学分野の専門家による選考委員会において研究助成対象者を選考し決定する。

(3) 募集期間

2025年6月1日(日)～2025年8月31日(日)

決定は2025年11月下旬。

公益目的事業2 フォーラム等開催事業

1. 講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー研究集会及び研修会の開催

「第23回 Kフォーラム」開催

日時 2025年8月8日(金)～10日(日)で開催予定(2泊3日)

場所 ホテルアソシア高山リゾート

表題

「未来への架け橋：ヒトとロボット・AIの共創社会に分け入ってみよう」

予算 300万円(事前・事後事務経費を含む)

【趣旨】

ChatGPTを始めとする生成AIのめざましい技術革新を目の当たりにして、人々はいま生きる社会の大きな変革への期待と戸惑いが交錯している様に思われます。

高速インターネット、ソーシャルメディアの普及・成長、アプリの多様化などで、ネットワーク上の生活世界が一挙にグローバル化した時代が思い起こされます。

ちょうど13年前の、2012年第12回Kフォーラムの開催趣旨(故福村晃夫教授による)に、「いま大学の3年生達は例外なくスマホなどのケイタイを手にして会社説明会に詰め掛けています。彼らはネットワークを介してほぼ完全な接続の状態にありますが、身元引受の保証があるわけではなく、断絶が見え隠れしています。この格差はなんと大きいことか。」と、グローバル化したネットワーク生活空間の中の当時の学生に目を向け、「いま彼らの身体は次なる文化を求めることを喫緊の課題としていることでしょ

う。それは一体なにがもたらすのか。激動するこの時代を招来したのは情報技術であったのと同じようにして、未来社会を新たなテクノロジーの上に乗せるしかないのでしょうか。人・身体・脳・知能・言葉の融合研究を基底にした、これから育つ、革新的テクノロジーが期待されます。彼らはそれらを用いて新しい表現法と新しい言語を創発し、コミュニケーションの新形式を見つけて時代に応じたコミュニティーの創造にいそしむことでしょう。若手研究者の活躍を待つことや大であります。」とあります。

いま目の前にある生成 AI の生活世界を創出したのは、まさにこの 10 年余の、若手研究者の活躍でしょう。AI 技術の可能性は社会と生活の中に一気に流れ込んでいます。特に生成 AI のマルチモーダル化はテキストだけでなく画像や音声をも統合し、より複雑な対話を可能にしました。これにより教育、エンターテインメント、顧客サービスなど幅広い分野での応用が進んでいます。また、ビジネスプロセス自動化や意思決定のサポートなど企業活動においてその役割を高めています。さらには、ロボットへの AI の統合は、自動運転車、無人配送ロボット、自立型ドローンなどの開発実用化も社会を大きく変えるでしょう。

しかし、ここでも、上に引用した K フォーラムの趣旨の中の次のフレーズ 「この新たな生活世界はコンピュータ支援であるがゆえに、模写、模倣、模擬、模造、偽造を内蔵するシミュレーションをその文化の基底とすることの必然として、社会相は激しい変化、多様化を伴いながら流動して已みません。」は、いまの ChatGPT をはじめとする AI の生活世界に対しても鋭い視線であると思います。12 支の螺旋階段を一回り登りましたが、再び次の高みに向けて、人・身体・脳・知能・言葉の融合研究を基底にした、これから育つ、革新的テクノロジーが期待されます。再び、若手研究者の活躍に期待するところ大であります。

2. ロボカップジュニアジャパンオープン後援

ロボカップジュニアジャパンオープン 名古屋大会の後援として、継続支援を行う。予算は 100 万円。

3. 設立 30 周年記念フォーラム開催

30 周年を記念し、識者や AI, 情報科学分野の専門家をお招きして、講演、対談およびフォーラム、パネルディスカッションなどを 2 日間にわたり開催する。

開催時期 2026 年 2 月 27 日(金)ー 28 (土)

会場 名古屋マリオットアソシアホテル

予算 3,500 万円 (事前・事後の事務経費、管理費含む)

公益目的事業 3 機関誌、論文集刊行及び啓蒙事業

1. 出版物の編集及び刊行等

- ・財団機関誌 (K 通信) を 6 月 (No. 57) と 12 月 (No. 58) に発行する。
- ・財団機関誌の配布及びホームページへの掲載などの啓蒙活動の実施。
- ・30 周年記念財団機関紙・記念論文集の刊行

30 周年に相応しいテーマで論文を公募しその論文の中から優れたものを

(公益事業に準じた選考方法で)選出し機関紙や論文集を刊行し、ホームページでも公開する。予算は200万円。

その他

1. 公告・情報公開

情報公開や情報発信、機関誌の掲載などホームページの内容を充実させるなど、ホームページを活用した活動を行なう。

2. 特定費用準備資金

設立40周年(2035年度)に向け、記念事業実施のための積立を行なう。総額については2025年度の30周年記念事業の結果を踏まえて年度中に設定する。

以上